

昭和四年十二月十五日招集(第二号)
第四回市議會定例会會議錄

館山市議会第四回定例会会議録(第二号)

昭和四十二年十二月招集

二十二月十五日(木曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 通告質問

第二 請願書

認定第一号

昭和四十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和四十年年度館山市公益質屋特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和四十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

第三

認定第五号

昭和四十一年度館山市簡易水道事業特別会計
歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和四十一年度館山市休養施設特別会計歳入
歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十一年度館山市館山エース・ホテル特別会計
歳入歳出決算の認定について

認定第八号

昭和四十一年度館山市上水道事業特別会計歳入
歳出決算の認定について

第四 議案第六十号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

議案第六十号

昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計補
正予算

第五

議案第六十号

昭和四十一年度館山市と畜場特別会計補正予算

午前十時、二分

開議

議長(田中祿郎君)本日、出席議員数三十一名。

二、より、第四回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日、の会議はお手元^元に配付の日程表により行ないます。

日程第一通告による行政一般質問を行ないます。

一、番議員 辻田実君

(一、番議員 登壇)

一、番(辻田実君)道路施策と交通安全対策について御質問を申し上げたいと思います。

今日におきます、最大の関心事は世論調査によりますと、交通事故が不安であるようでございます。

交通事故による死亡者は今や、日清、日露の戦争の戦死者をはるかに、さき第二次大戦の戦死者に、対応しようとしております。こゝことは、熊山市民にとりま

も同じことはいえるのでございます。

家庭の主婦の人が、毎日子備を学校に去すときに必ず、自動車に気を付けて、いつて下さいとあいつをいつておるが現状でございます。そうして子供が無事に学校から帰ってくる。ほっとしておるというがほとんどどう意見のようでございます。

また夫々勤務についても同じことはいえるのでございます。すなわちこれは昨年一年におきまして、館山市の交通事故が三百八十七件あり、そのうち死者十五名もあるからであります。本年十一月末までにさらに増加して七百四十七件もあり、死者が二十五名も出ておる現状であるから当然のことであろうと思つてあります。

一日一件以上は必ず、警察で交通事故を処理してゐるでありますから、私が質問いたしております。

ときにもこの数字でいくと市町村どこかで事故が起きて
いることも残念ばかり否定することができないのが今日の
現状であるわけでございます。このように交通事故が
ひんぱんに起きてゐる原因は何であるかといった場合
その結果は簡單でございます。事故件数、内容を
調べますと、飲酒による事故と、支差点における事故
が圧倒的に多い数字を示してゐることでございます。
二つことはすでに前者が運転者の道德的のもので
ありまするが、後者は政治的の問題から起きてくる
ところの問題であらうと思つてございます。

そこで私は特に土木行政から起きてくるところの交通事故
の対策について特に御質問申し上げたいのでございます。
そのことにより、館山市においては道路行政から起る
ところの交通事故を絶滅させることができらうでは

ないか、と思う^からうでございます。従って私は以上、観
点から、次、五つ、事項について、具体的御質問
を申上げたいのでございます。

第一は日本経済の根幹をなす――社会の発展を以て
いる中におきましては、自動車の利用を否定するこ
とは、不可能なことでございます。このことは、総理府
で発表された国民生活審議会が推定した自動車普及
率を見ても、十年後には国民生活の向上から、五
世帯に一台の割合になることを指摘しております。

さらに政府が推定したテレビ、冷蔵庫の普及度から
見ても、十年たないうちに、二、三程度の数字は達せ
らるると思うのであります。そこで、私が問題にしたい

は、自動車の普及率に合った道路対策を早急心に
打ち出さないと、交通事故の増加を防ぐことはできなくな

るだけでなく観光や産業経済をはじめ館山市民の市民生活にも大きな支障をきたしてくることが目に見えてゐるからでございします。

この点を私はまず第一点として御質問申し上げたいわけ
でございします。

自動車道でない道路に自動車と歩行者を一緒に通
過させれば交通事故がふえるのが当然でございします。

そこで現在、館山市におきましては財政的な面もあり
いっぺんに自動車道と一般歩行者道を分離させる
ようなことはできないかもしれませんが、一か！現在作
成されております長期計画等の中においてこの一点
を織り込み、そうして最重点にして推進する意向が
あるかないか、このよう構想について市長の所信を明
らかにしていただきたいでございします。

第二に館山市が好むと好まざるとにかかわらず自動車は普及さしてゐるやであります。

それだからといって一挙に自動車道と一般歩道と分離して、これを早急に具体化させていけと申しても、これは理想に走り過ぎるくらいでもないではないやであります。

現実にはもうとゞきびいものがあるわけでございます。一かゝせめて通勤・通学・道路の充実だけでも具体化していく考えはないでしょうか。この点を御質問申し上げたいのでございます。

現在私が知つてゐるところでは館山小学校、さらに二つの通学道路があるわけでございます。一かゝながら通学道路は不十分であります。

例えば館山小学校におきます通学道路、二中においても雨が降るとどうなるか、むしろほかの自動

車が多く通るところ、舗装化された市道を通らなければならぬ。それが現況であるわけでごまいて、二、三の点について、通学道路、通勤道路について、早急に立派なものと言いませんけれども対策を立てらる意向がないかということでごまいます。

特に通学道路につきまては幅が一メートルもあれば足りるのではあります。二、三の面については各学校全部に通学道路を設定して簡易舗装化して通学道路に親が子供をつれていけばあとは学校まで自動車事故や危険にさらされることなく一直線にいけるということもできると思っております。

これが私は親切なやり方だ、市当局において、二、三の点について、実現できることだと思います。二、三の点につきまてはどのような考えにたっているか、そうして、二

いかに実現されていくところの気持ちがあるかどうか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

第三点に文明の発展に即した道路行政を確立するにはまず、館山市全体が自動車を利用できるという前提がなければならぬ。そこで農業、漁業を経済の基盤にしている当市におきましては耕耘機を自由に出入りできない農道が多いうでは困る。農業の振興は生産物の流通がなされなければならぬという点は明らかでございます。従って農道の基本的改革が、市経済の発展を左右するものであると思っております。

漁業についても全く農業と同トことがいえるのでございます。また、商業においても今日では自動車で市民の個々る家に届けるような状態にならなければ商業の振興というもままならないわけでございます。というわけで

面におきましても、館山市におきます道路の幅員の問題。そうして、都市計画の確立。そうして、ものが自動車の著しい普及に即応した中において、なされなければならぬと思うわけでございます。それと、この点につきましても、どうしようにも考えになつておるのか、お伺いしたいわけでございます。

第四番目に、主要道路の駐車禁止になつてゐる点でございます。市内の目抜き通りは、ほとんど駐車禁止になつてゐるわけでございます。商店の前で駐車できるのは、ごく限られた裏通りの一部に過ぎなくなつてゐます。これは、商業に対する打撃は、想像以上のものがあるものであります。商店だけでなく、一般市民の迷惑もまた同様のことが言えるのでございます。館山市の目抜き通りに位置する非常に多くの一般

市民は、外来客がきても、家や前に車を止められない。
 こういふ一般家庭が、館山市においても、かぞえ切れない
 ほどございます。

従って、駐車禁止について、何らかう対策を立てなければ
 ならないわけでございます。これには、道路を分離し
 さらうに、道路の幅員を広げるといふ高度な計画が、さ
 もないと現状のままにおいても、館山市が責任を担って
 各所に駐車場を市営等によって設置することでは
 いろいろ問題を緩和させる方法が打ち出さなければ
 ならないと思ふわけでございます。

そう一点につきまいて、どうふうになつておるか。お伺い
 したいわけでございます。これに関連いたしまして、
 羊々駐車禁止区域がふえておるのでございます。
 館山市上須賀、柏崎に至る道路も、昨年までは、駐

車禁止区域になっておられたわけですが、昨年あたりからいつまにか、駐車禁止の標識が公平委員会によって立てられておる現状でございます。するけれども公平委員会や駐車禁止の標識、というものを設定するに当りまして公平委員会等から館山市に事前に連絡があるのか、そういう地元の意向、ある程度の話合いなり協議がなされておるかという点について、お伺いしたいわけでございます。

さらにもう一つは一方通行の問題でございます。

今日駅前から館山市役所に通ずる道路は一方通行になっておるわけでございます。カーナガウ、ここ

一カ所の一方通行ということとは館山市にとりまては非常に問題であるわけでございます。

まず第一にほとんどが官公庁に参りますには、一方

交通うため、山に帰るときは、どうか道を採って国
道に出ていかなければならないという不便さ、地元の人
 でも帰る道を採すうに**混乱**する。そいう中
 おきまいて、館山銀座那右方面に、国道は、想像以上
 の混乱を起してゐるわけでございます。

警察署によりますと、現在、館山市で一番交通事
 故の危険度が高いのは、市役所の裏通りを通つて
農協の脇にある道路、三差路でございます。
 昨年あたりから、急激にあそこにおきます事故件数が
 多くて、大体月に三件乃至四件起きてゐるというこ
 とでございます。

起る理由についてはいろいろあるうかと思ひますけれ
 ども、月に三件乃至四件起きてゐるといふ実態の
 中において、私は人為的のものでなく、道路そのものの

構造の不備からくるものであらうと思つてあります。
ニラーに二つについて、館山市が対策を立てなければ、私は
道路行政に対する政治というものはあり得ないと思つて
わけでございます。この点を特に強調いたして、事故
が月に一度、二度起きる点については、徹底的に市
土木行政をもつて解決していただきたいわけではござ
います。

特に国分における国道の舗装化によりまして、あそこ
う曲り角のところでございます。舗装すると
同時に十一月二十一日にカーブを曲り切らないで、死者一
名を出す事故が起きております。十一月二十九日また
同様の状況で民家に飛び込んで重傷者を出しております。
ます。

この点につきましては、あそこ道路にカーブの標識も徐

行の標識も大ておらないという状況であり警察
当局においても普通に運転しても曲っていることを
知らなければ突っ込むのがあたりまえで構造上うー
スだといっております。

ニハから、果の方も了解したで、標識を立てて対策
を立てたいといっておりますが、もうすでに二件の事
故を起してあるという現況でございます。

早急に何らかの対策を立てなければ、果道であるとか
国道であるといつても、館山市内にある道路でござい
ますから、ニハと同じことが、同ドケースによって

二度、三度繰り返されることになり、政治の中で解
決していかなければならぬというではないかという点を指
摘したいわけでござりまするけれども、この点につきま
と、どういふお考えになるか、私は市長の決意、ほどを

お伺いしたいわけでございます。

最後に申し上げますけれども、交通標識の問題について
お伺いしたいわけでございます。現在ではさほどではござ
いせんけれども夏の期間中、外来者が館山市
に入ってきますとフラワーラインにどの道と
白抜にどの道と尋ねるわけでございます
ます。そのために館山市でどこかで車を止めて通
行者、店員に聞く。館山市の道はややこしくて見
当がつかないという方が多く、声であるようにござい
ます。

館山市は観光地として売り出しているフラワーラインと
いう道路ができたので、自動車できてくださいという
ことを宣伝して、実態はフラワーラインに
いくまで、道路は全く迷路であるということについては

困るのではないかと思う。

この点につきましては、交通安全協会、さらに県、そういうところ、正式の標識は立てまして、市独自としても、市民の便宜、さらに観光地としても、観光者に対する便宜をはかるという意味から、私は町に少い標識が多過ぎても、こういう現状の道路ですから、いた方がないと思うわけでございます。市独自がある期間においては、立てる必要があるのではないかと思う。この点、どういふようにお考えになるか、お伺いしたいわけでございます。それと合わせて、先ほども申しましたけれども、釧路市に非常に危険な個所が多いためでございます。

私、四五日前、交通課、警察官に聞きまして、この市役所から出ていった農協の角、うようなところ

が市内に十指に余るといふことでございます。

例えば、船形や駅に入る海岸道路から交差する十字路、あそこも十数回の事故があるそうでございます。さらに堂の下や曲りくわった道路におきましても、一年間に十件以上の事故があるそうでございます。さらに洲崎の有料道路や切れるところや曲り角におきましても、十件に及んでおるそうでございます。

三十一の一年間に十件以上の事故が起こるということ、導軌上のミスもあらうかと思いますが、道路上の欠陥ではないかと思うわけでございまして、二つうの標識、指示や不徹底を指摘せざるを得ないやうであります。特に明かるいニュースといひまゝでは、飯塚薬局の十字路に信号機を付けてあそこで事故がほとんど起きてない。それまでは事故が多発地帯でマークして

なるわけで信号機を付けてから事故はほとんど起きていない。あの信号機を付けたことでも事故が防げる。そのことによつて二十五人も死者が一人でも二人でも災害から免れるということであらば金や大小で評価されるのではないやうでありましてこの点について形式でなくて真剣に取り組む意向があるやうかどうか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

以上、五点について質問いたしますわけでございます。御答弁のほどをお願ひ申し上げます。（拍手）

（市長 登壇）

○市長（本間 謙君）一〇番議員さんの御質問に対してお答えいたしたいと思います。

大へん現実的な切実な御質問でございます。金く

敬意を表する次第でございます。

私は道路交通問題につきまゝては、非常に強く考えておるわけでございますが、おおよっぱに考えまゝて市街地や市道はできるだけ早く改修、舗装をいたしたいのと農漁村地帯、市道につきまゝては、少なくとも消防自動車がいっでも入れるような改修をいたしたい。こういうことを道路行政につきまゝては、考えておる次第でございます。また、交通安全問題につきまゝては、なかなかむずかしい問題であるわけでございます。けれども、長期計画とともに都市計画を考え、急いでおるわけでございます。何としましても、都市計画が確立しなければなかなか問題が解決できないわけでございます。ただ、さう泊っておる問題といひまゝては、市内に公衆的駐車場を五カ所作らないと考へ

ておきまして、いろいろ、その土地の方々ともお話し合
いを進めておるわけでございますが、まず、船形一カ所、
北条一カ所、長須賀一カ所、館山一カ所、那古一カ所
とりあえず、五カ所、公共的駐車場を作りたいと
いうことで、現在進めております。

北条地区におきましても、商業関係の方々に願ひ
まゝして、いろいろ土地を交渉しておるわけでございま
すけれども、まだ、話しがつかません。

長須賀地区におきましては、青山商店の脇の川をふ
たをして、やつたらどうか。市でやる分には、さうつかえない
というところで、商業会長さんの方に話を進めておるわ
けでございます。

館山地区におきましては、君塚さんや奥の方に神社があ
ります。あそこら辺にやつたらどうか。もう一つは、館山

神社がございますが、あそこ辺に、どうかという話を推
めておるわけでございますが、なかなか地所の問題になると
むずかしい面もあります。とりあえず、市街地について
は五カ所作る交通を緩和しようということとを基本的
に道路交通問題については、考えておるわけでございます。
また自動車事故はもちろん運転手責任によるものが
非常に多いわけでございますが、やはり交通規則をわき
まえない市民もおるわけでございます。

そういう方々に対する指導、或いは小学生、中学生に
対する指導というものが非常に大切で、現在もやってお
ります。教育長に願って交通安全に対する指
定校というようなものを設けて推進してもらいたいと申
しておりますわけでございます。

また生徒やなんかい保護一般交通者や事故を少なくす

るために指導員を四五人来年はふやしてそういうことに
にも当りたいと考えております。

第一点、お尋ねは自動車道路と歩行者の区分を明らか
かに、あなたが交通安全上よろしいではないか。三つ、御
質問、よろしく思われるわけでございますが、二つ、基
つとも、わけでございますが、二つ、つきまゝではよろし
本的都市計画というものができないとなかなかうまくいか
ないわけでございます。

現在、北条の商店街の方々は、市の方からいろいろ指導し
ておるわけでございますが、自発的に歩道をニートル作ろ
うという動きがありますけれども、賛成する人も大勢
ですけれども、法的根拠がないから実行できない。三つ、
現実であるわけでございまして、都市計画を早急に作
らなければならぬことは明白なことでございます。

それからまた新しい国道、県道に面して新築しようといふ方々を法律上おさえるものが現在ないわけでございます。とにかく商業者の方々の協力、反省というものがなければできないのではないかと思います。いづれにしましても都市計画を策定するといふことでなければ基本的にはいけないと思ひます。

都市計画につきましても現在は現在も調査しておりますが土木の方では人が足りないのでやむを得ない。三、四名ふやしてもうわなせばならぬ。専門家に頼めば、六七百万円もするといふことで土木の方では人を入れておつていふといふような状況であります。

そういうものがすつかりきまらぬといふと辻田議員さんのおっしゃるようなことは必要でございますけれども、すぐにはできない。商業者や自衛隊というんですか、まづそのほか

はなっていると思います。そういうことをするにつま
ても土地の買収とか、移転とか、いろいろ費用がかか
るわけですが、正式に許可しなければ、補助金も
ありません。市の方も助成をすることもあると思
いますが、相資金がかかることでもあります。けれども、これは
捨てておきかけにも参りません。都市計画を早急に樹
立して対処しなければならぬと考えております。
ですから、現段階におきましては、交通指道等をして、事
故を少くでもなくする方向でやって参りたいと考えてお
ります。

それから交通安金の立場から、通勤通学道路の御
質問でございますが、これもごもっともでございます。
道路施策につきましては、先ほど申し上げましたとおり、通
学道路について必要なものについて手入れます。

道もよくする。一方児童の交通安全に対する教育を教育委員会の方から心配してもらつてするということも非常に大事ではないかと考えておるわけでございますが、これにつきまゝでは故警察署が中心になりまして交通安全協会とそれらの方々によつて講習会、いろいろのことが開かれておりますから、そういうことも大いに強化して参りたいと思ひます。

それから農業・漁業・商業の育成のために何にても道路が中心であるわけでございます。不便なところにつきまゝでは改良とはやりまして産業の振興をはかつて参りたいと思つておりますから、そのように御了承願ひます。それから市街地における主要道路の駐車禁止と一方交通は経済の発展を著しく阻害してゐるということでございますが、この点についてはおしやるとありであるわけ

でございますが、ただ今申し上げましたように市街地の市道についてはできるだけ舗装化をだんだんにはかづてい道にしたい。

道路負担金、問題でございますが、来年度はもうター緩和しようと考えておる——土木課長とも相談しております。——カー恒久的なことにつきましては、やはり

都市計画がでなければならぬと考えております。駐車禁止につきましては、警察署におきまして私どもの方へ話がございまして、また関係者、関係部落の方々にもお話を進めてあることは事実でございます。これは非常に不便でございますが、現段階においては、やむを得ないと思ひます。

これは緩和は望み薄でむしろ強化されるのではないかと、思ひまして、やはり公共的駐車場を設けて対処する。

そうして、交通道德の高揚。そういうものをしなければいけないと思います。

大軒町やなんかで自動車や緩和につきましても、現在海岸線もできております。正木から市役所通りもありますから、大軒町方面に用がない車はなるべくそういう道を通るように今後指導して参りたい。そうして交通の緩和をはかりたい。

それから交通標識の件につきましても、やはり道路の管理者が置く義務があるということでございまして、県道は、県、国道は国、市道は市、こういうことでございしますが、館山市にあるそういう道路につきましても、一般観光客とか、一般人の便利をはかるような辻田さんや、おっしゃるような場所につきましても、調査してやって参りたいと考えております。以上申上げます。

一、番(辻田実君)交通対策の問題については絶対に
処置しなければならぬ点でございますが、その中で二
三お伺いしてまいりたいわけでございます。

まず、第一では自動車道を作ることは無理としても、
迂回道路とか、そういうものについて工夫があるのではな
いか。海岸道路につきましても、現在有効に使われて
おりますが、夏になるとあの脇に駐車場が設置
されて自動車が行き止まりという状況。もうちょっと千倉
方面、鴨川方面に行く車については、利用しやすいように
那古の入口にははつきりした標示をして、だれがきても
千倉に行くときにとっちを通るというふうなことであれば
かなり通ってくる。そういう点について対策というか、
注意が足りないのではなにかと思うわけでございますが、
早急に迂回道路の問題を考えて市街地や緩和対策

がでないかというところが一つ。

二番目に前年比の減少は、大都市の診断の中で、熊山市に歩道がゼロというものは珍らしいという形で指摘されておる。今のお話の中では、土地の問題、いろいろあって早急に対応できないと言われているが、この点十分認識されていると思います。けれども人命に直結する問題でもございします。で、市民の協力を得て強かに推進していただきたい。この点については要望に止めておきたいと思ひます。

次に一方交通の問題ですけれども、答弁がなかったわけですが、事前になると連絡が取り協議があるかということですね。事前にあるとすれば、市役所を通り、一方交通になったときに鏡浦亭にある道は、舗装化なり、具体的にやうて、県や公安委員会等に対して一方交

通にせよば、館山市は打撃を受けざるや。抜道を作る
まで待つてもらいたいというところができないか。一方交通に
するからには、道路の拡張とか、そういう面で全体が
都市計画云々というところでなく、部分的なものについては、
果て補助、そういうものを実施していくことができるやで
はないか。その点につきましては、そういう処置が講じられ
てきたかという点を重ねて御質問申上げたい
わけでございます。

最後に事故多発地帯、一年間に十回以上、五回以上
起きてゐる場所があるわけでございます。

市長さん、答弁でございます。道路、道徳上の問題
でドライバーの方にいろいろ問題があるやでということ
を言われておりますが、確かにその点はあると思ひます。
運転者が安全運転でやつておれば事故はほとんど起

きないといつてもいいかもしれません。カーながらいろいろ
問題はあるとしても同じ場所で一半年間に五回とか十
回起きてゐる場所については政治的な問題になる
ではないかと私は思ふわけでございます。その点に対す
る調査は今までされてきたが、今後できるだけ改善し
ていきたいとおつてありますけれども、これからという
ことでなく、早急にやつていただくたい。構造をなおす
ということでなくともいろいろ講ずる方法がある
ではないか。例えば標識を市独自で作って運転者に
注意心とうながすような方法なり、あるいは、まづはど
んな方法でもある。そういう点については手技なりが
あるのではないかと思ひますが、この点についてとにかく何
らかの方法で熊本市や安全協会等を通じて運転者
に対する注意PRというものを徹底できないかという

ことを伺いたいわけでございます。

教育長さんに一点お伺いしたい。学用道路の面、市長さんも若干触れられておりまして、館山小学校が一番よくわかりますが、あそこは館山神社まで学用道路ということでは、どう學生が通る。私は非常にいいと思う。柏崎方面にいく人が相当多いわけでございますが、あうたんぼの中にあぜ道があつてよく通るわけでございます。今たんぼの道路が放置されておるから通れないから上須賀、西う茨の交通多発地帯を通過してある農業の開発等からんでたんぼの中にある程度、道を作って簡易舗装でもして朝七時半から九時まで位は自動車等を通さないということでは道を作ればほとんど市街地の道路を通らないで一直線に柏崎とか宮城方面にいく人が通る。このことは北条小学校におき

ましても、那古小學校におきましても、そういうことがある
のでありまして、教育委員会の方でP・T・Aの協力を
得ておけばP・T・Aなんか、自分の子供をやってゐるわけな
ございまして、から土地の提供なんかについては特別協力を
を得らると思つたのでありますが、この点について今後
やつていかれる意向があるか。以上教育長さんの方から、
御答弁をお願いしたいと思います。

・市長(本間 義君) 大へん適切な御質問でございますが、
私もそのように考えております。

近回道路の標識、これは必要ですね。せつかくその道
路があるのに、そこからきて知らないで誤解することもし
ありますので、これにつきましては、交通係もできており
ますので、案内のそういう標識を早急に作るこ
とにいたします。

それから歩道についてはここにはどこにもない。ないけれども六軒町の商店街の人たちもいろいろ研究しておる。すが、市の方で交通緩和をしようということでもやっております。市役所から鏡浦亭のところを早急に広げて舗装してやっていきたい。これにおきましても相当緩和されると思います。

それから一方交通をする場合に話があったかどうか。また、それに対して意見を申し込む。こういうことごとございますが、教養寮の方から話がありまいた。

一かー私は利用する商店街とか町内会の方より意見をよく聞くことがいいうではないかというのを申し上げて、ここをやっていくにはいけないうから、ここをやっていくとはいってありません。今後についてはまた考えてそういう事情ができれば、署長の方に申し上げたいと思います。

これは署長が意見を聞いて公安委員会に申請して
向こうでは署長の言ったとおりをやってくるらしいですね。
今後交通が複雑になりまして、いろいろのことがありま
しょうからよく調べたて対処いたします。

それから事故も多く発生する箇所については何とかい
くては、いけないということとは当然考えらるわけであ
ございますが、これは今申し上げましたように交通係も作
りまいた。警察の方とも相談してよく検討して
やるようにいたします。いづれにしても交通問題は一番
大きな問題でございますから、私どもとしても本当に
真剣に考えて対処しなければならぬ。またいたして
おるわけでございます。

・教育長(押本禧悦君) 通学道路の問題でございますが、
児童生徒が登下校につきましては、各学校とも一応

は家から学校まで、通路はぎめてあるわけでございます。特に安全会等で事故があった場合の補償等もいつも通学している道でなく、横回りをしてたり、或いは寄り道をしてたりというところでは、それと該当しないという条項すらあるわけでございます。カーニヤにつまましてはいろいろお話しするように、今後はさらに校長会等でも再吟味をするようにしたい。特に今まで、登下校の道筋を部落或いは子供会等でよく検討して、P・T・Aや会等でもよくP・R・M・M・M・Mとも安全な道を通って登下校する方向に指導をしていきたいと思ひます。

一、番(辻田実君) 道路問題につきましては、議論をして結論があるものでございせんので、一応了解いたしまして。特に一点だけ要望したいわけでございますが、

きょうの問題でございまして人命につながる問題でござい
ますので、館山市民が痛感していることでございまして、
早急に決意を持ってやっていただきたい。今夜の処理を要
望いたします。――終り――と思います。

議長(田中祿郎君) 以上で通告質問を終ります。
日程第二請願書を上程いたします。

(書記胡詠)

(二四番議員登壇)

二四番(志村信作君) 船形小学校内に船形小学校及び館山
中共用の給食施設を作っているべきだ、という請願で
ございます。

理由にもございまして、今、船形地区の生徒は日
本全国或いは千葉県同一の年学児童の体位より
劣っております。なお、館山市内におきましても決してい

い方ではない。どういふことが原因かといろいろ関係当局者が研究いたし、まゝの結果、原因はいろいろあるけれども、まず食物からなおしていかねければならない。特に船形の住民が零細な漁業生活者が多いので従つて各家庭の生活環境、食物、環境において大へんな相違がある。ニホを足正して適当な栄養源を取らんことには生活の体位向上は期し得らぬ。いという結論に到達いたしました。なおかつ零細漁民が昔から多いのであります。従つて婦人たちもおろろ取場を求めて勤めに出てゐる。お昼になりますと若い母親の数がなくて留守の家庭が多いので、年寄りにかかせるところがある。年寄りのいない者はお金を持ちて昼になつたらアンパンを買つて食ふというのをやつてゐる家庭もある。

わけでございます。もう一つ、このことでは教育上ゆゆしき問題でありますので、是非、これは学校給食をいなければならぬ。これは船形全域の学校につき子供一致に要望でございます。

ただ今請願者の代表者を読上げたいと思っておりますが、この内容を見ましても、船形全学校にいく全地域の方たちの要望に間違いありませんので、なにとぞ理由にありますが、このことを御審議下さいます。一日も早く給食がでますように御採択をお願いいたします。紹介議員としてお願いいたします。（拍手）

二番（辻田実君）請願者もこの内容について内容的な質問をして申し分けなんですが、一点だけ伺いましておきたいわけですが、共用という点について御質問したいわけでございます。請願者は全部船形

人でございます。一中が共用ということになります
と那古地区の方が相当いるわけでございます。

話し合いがついてるかと思ひますが、こゝが十分なまて
あるかという点をお伺ひたいわけです。

二九番（鈴木市蔵君）私から申上げます。こゝは、一中のPTA
の会長が請願の中に加わっております。一中のPTA
船形PTA、先生方との話し合いでそういう問題は
ないと思ひ及んでおります。まゝ、那古小学校は現
在給食を行なつております。

一中と小学校のことについては話し合いがついておりますから
安心して採決するほどをお願いいたします。

議長（田中祿郎君）この請願書を採決することに御異
議ありませんか。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって本請願書は採択と決まりました。

本請願書は関係当局に送付することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって送付と決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午前十一時八分 休憩

午前十一時三十分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三 認定第一号乃至第八号を一括して議題と

いたします。

本決算書の内容説明は先日、会議より終っておりますので、本日はただちに質疑を行ないます。

一八番（西村真次君）ごく簡単に御質問いたします。

四二ページ民生費に關連してありますが、不用額が百六十一万七千余円ありますが、不用額が多過ぎるという感じがいたします。このうち中におきまして四四ページ貸し付け金、十四万二千円扶助費において十六万四千幾ら、こういう不用額があまりのわけでありますか、これはどういうわけで生じたのか、簡単に御答弁いただけます。

福祉事務所長（鵜沢貴覚君）お答え申し上げます。

貸し付け金、不用額でございますが、利用者が少ない

ことに基因するものでございます。このとき貸し付け該
当者が十二件、月に一件程度でありまして、このよ
うな不用額がふたわけでございます。

それから扶助費も十六万四千円、不用額でございますが
これは予算に対して廃止件数が多かったというこ
とが原因でございます。

一八番(西村真次君)了解いたしますが、この貸し付け金に
つきまして前回にも御意見がふたように思いますが
これを借りるのに手続き上めんどうがある。保証人が
必要であるとか、民生委員の手を通しなけばならないと
いうことがあって、借りにくいのではないかと、御意見
もあつたように思いますが、私もその点を配するわけで
ございます。もう一つもほいだけども、どうも手続き
がめんどうである。或いはきまりが悪くて申請ができ

ないという二とがあつたのでは、この趣旨を達成すること
が困難ではないか。こういうふうな考えまゝしてお尋ね
するわけではございますが、そういう傾向が見えない
か。どうかという二と。それから扶助費の説明はつきり
しなかつたんですが、これだけの金を余しておくなら
ほかに役に立てる方法はないか。その点。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)貸し付け金、貸し付け方
法でございます。ただいまおせうとあり、保証人を
二名付けるということと、印鑑簿に登録されてゐる印鑑を
使用するということとで、確かに借りる人はおつくりまう
でございます。やはり公金、貸し付けでございますので、
私の方としては、この程度、もうは手続きをふんでい
ないかなければならぬと考へております。

それから扶助費の方でございますが、扶助額がきまつてお

ますので、私の方で見込んでよりも支出がなかったという
ことで別に余ったのをほかの扶助の方に支出するという
こともつきかねますので、そういう手加減はでない。

・六番(関武夫君)九ページ五款使用料及び手数料、三目
土木使用料ですが、二節「住宅使用料」において二十五万
六千七百円の未納がございます。

それから二四ページ「雑入」六目「過年度収入」一節「住宅
使用料」過年度分り未納が十五万六千八百四十三円あり
ますが、これは市営住宅の家賃の滞納だと思えます
が、家賃を徴収する場合の方法をお尋ねいたします。
それから六一ページ「二十四節」投資及び公資金で中小
企業の融資預託金に一千万出ておるわけですが、四
十年度における運用状況、どういう程度に活用さ
れておったかということをお尋ねいたします。

それから二十二節、補償補てん及び交付金で十二万三千四百六十七円の損失が出てゐるわけですが、貸し倒れだと思ひますが、その実情を御説明願ひます。

それから五四ページ労働諸費の二十四節、投資及び未資金において百五十万円の勤労者の厚生対策の預託金が出ておりますが、この四十年年度における活用状況、それらの御説明を願ひたいと思ひます。

。収納課長(多田俊一君)住宅使用料の徴収について御説明申上げます。

一応、私どもの方では納期が過ぎまして催告書を出すと同時に係がね向きまして徴収いたしてあります。

病人があつて納められないという家庭もある。中には我々としても悪質だということ語弊があるかもしれませんが、そういう者もあります。そういう人に対して

てはいろいろとやっておりますが、四十年度におきましては、
こゝだけう滞納になつております。

なお、こゝにつきましては、差押えができるかどうか。それか
ら、市や条制から、退去させることもできるとあります。が
なるべく話合いによつて納めさせたいと考えております。が
こゝ段階におきましては、ごらんのような数字が出ておる
わけでございます。

商工観光課長(小沢正治君) 大ページ投資及び出資金、
補償及び補てん金でございますが、前年度七百万円、
預託を本年度一千万に伸ばしていただいておりますが、
一件あたり、額が五十万というのになつておりますが、
逐次上昇線をとつて参りまして、現在、日本相互銀行
や、館山支店に預託してゐるわけでございますが、契約
が、預託額の三倍額を融資するということとで、実施

して参ったのであります。が、前年度末あたりから、七
 百万円の三倍額を突破する状態になって参ります。
 一にために四十年、特に三百万円増額をお願い
 したわけでございますが、これによりまして、大体、前年
 度約二千万前後がさらに二千四百万乃至五百万という
 ような係数になりまして、期間といつても、最
 高一カ年の融資期間でございますが、これはどう
 しても、年度をわたります。関係上、少なくて六十数
 件、多くなりますと、八十件を突破して参ります。
 ここに一つの問題は、融資制度が必ずしも単なる
 融資でなくて、現実問題といつても、各融資
 機関にどうしても融通がきかなくなつて、これに頼
 るより、方法がないという形、難零細業者がかな
 り出て参るわけでございます。

こゝういふ業者に對しまして、それが焼け石に水といふやうな形でなくて、こゝによつて救済できるといふ面もあるわけでごさいます。そゝういふ關係で私どもとしては、單に融資をすゝば、足りるといふことではなく、實際に企業の内面に多チーテ、再生させ、さういふんだんに向上させ、いゝやうな形まで経営内容の指導までやつて参りませんと、所期の目的を達成することが非常に困難でございます。そゝういふ観点から、内容に立ち至つてまで、経営指導的なものでやつて参つてゐるわけでごさいます。が、零細企業でございますので、万々むを得ず代弁者が参りますと保証協会からう調定によります。ごけつさう一割の負担が参るわけでごさいます。實際問題として、取り扱ひからいいますと、^や弁済をしまゝなら、すぐに負担して下さいといふ形でございせん。

でやはり積極的に滞納整理はやっております。

どうしても不可能という段階に至って補償金
請求が参るわけでございます。四十年度で支出
します。補償金も実際貸し付けを行なった時点は
昭和三十八年から九年にかけてのものでございます。
従いまして私ども貸し付け時点の実際にはよくわか
つておりませんけれども保証協会にまかせっぱなしに
いたしませんで私ども回わりまして滞納整理をやる
わけでございます。

四十年度で代弁所で補償金を支出した該当は五件で
ございます。

最高は五十万が一件、滞納整理を相当実施しまして
あかつきにさらに残額に対してのものがございます。

そういうような状態で貸し付け額も累計は逐次

伸びて参っております。

それから次ぐ勤労者厚生対策の預託でございますが、これは労金に対して実施するわけでございまして、労金を対象として融資その他を催し、実際に受ける勤労者というものはいわゆる組織労働者でございます。この関係は私ともう方で労金等がトータルをすっかり把握してありませんけれども、と申しますのは数字的には比較にならない膨大な数字が動いておりますので、特に労金が市や預託に依存するような形でございまして、一助としてという数字でございします。

でき得ればもっと預託ができれば労金としてもさらにまくなろうと思ひますが、現在が段階ではこの程度というところで要望にこたえてゐる状態でございます。

実際にこれを基礎として市内の組織労働者に対する貸し付けを実施することになるとまだ十倍二十倍という数字でなければ足らないという状況でございます。

一六番(関武夫君)市営住宅の家賃につきまして差押えとか退去ということとは考えないでなるべく取りい方法で取つていただくかと思ひますが税金を取る場合の納税組合、あるいはいろいろな住宅を借りておる人たちが家賃の納付組合等を作つてみんなが揃ひいような方法がでないものかお尋ねいたします。

それと中小企業の前託金というものは救済基金でなくともその事業の振興が目的だと思ひまして最終的な回収という点は借りた方に責任を持つてもらうなければならぬ。損失補償をいかに五件程度と

いうことでございしますが、この五件は現在もう事業をやめて
しまつておけば仕方ないんですが、ずっと企業を継続して
ある方であれば、何とか最終的に納めてもらうという
ことで進んでいただきたいと思つてわけですが、その点いか
がですか。

・収納課長(多田俊一君) 私たちといひましても、市営住宅の
中に入つております方に呼びかけまゝ組合を作つていただ
きたいと思つてわけでございますが、いろいろ関係で結
成されなかつたのが現状でございます。

・商工観光課長(小沢正治君) 補償金で市が支出いたしまし
ても、債券が消滅するわけでございます。あくまで
も滞納整理は継続されます。滞納が整理されま
したあかつきには、市が負担した補償金は還付さ
します。三十八年度にありました五件は、逐次滞納は整

理さるまい。現在残つておるものが三件でございます。

一件は千葉に転出いたしまして保証協会に連絡を取つております。

事業を中止しておりますのは十万円一件。ほかのものは滞納整理が有んでおります。

三四番(山本昇君) まず基本的なことにつきまして二、三点伺いたいと思います。

昭和四十年度の予算に当たりまして特別委員会を作りまして私ども慎重審議になってございます。

特にその際にも私ども予算委員会は三つの点をお願いいたしますが、第一点といたしまして「過去二カ年における単年度赤字を生じたと聞いておるけれども四十年度的には絶対ニういうことのないように歳入確保に万全を期せられたい」ということを第一に願いたい。

この点につきましては努力により歳入がふえてその結果、一般会計で五千四百九十万余の繰越金が出てきた。その他各種特別予算においても繰越金が出てきたという報告を受けたりしておりますが、果してこれが真に歳入の確保が強く打ちあがってこういうものが出てきたのか、或いはいろいろ事業をやりたいと思つて予算を計上したうだけどもできてないで、それが残つてきたのか、そういうこともいろいろあるうと思ひますが、概略で結構でございますから基本的考えを示していただきたい。第二点に、予算を作成して議会に提出すれば、多少異論はあつても可決されるうだという安易な考え方でなく、予算編成に当たつては十分気をつけていただきたい。という二点を要望して申し上げたりであります。

こゝに予算を審議し可決した。その後執行部
といひまゝ必要と認めて追加更正予算を
にもかかわらず、最後に不用額として二千五百万余の
不用額が出ておることは何を意味してあるか。このことは
いわゆる議会の予算議決権を尊重してゐるかどうか
ということを一応私どもとしては考えざるを得ない。

この不用額の理由はいろいろあると思ひますが、これに
対しまするお考えを第二点としてお尋ねしたい。

第三点として予算の実施に当たっては本会議並びに
各種委員会を通じて指摘された幾多の質問に対し
て当局は真剣に研究検討すると同時に完全に予
算の執行をいたさきたい。ということをお合せて願
ひてあるわけでございます。にもかかわりませず、た
だ今、いつたやうなことがあることは果たして議会において

要望或いは指摘に対して、当局は真剣にやっていますか
ということを疑わざるを得ないのであります。

この点につきまして当局も考えを聞かれています。
私はさういふこの説明に当たりまして、三つの要望事
項を体しまして、こういう執行をしまして、お話が
あるかと思つて期待しておたがうてございますが、そう
なことはふやうにしてない。こういうところのいささか不
満を持ったわけでございますが、この点につきまして、当
局の基本的考えを聞かれています。

助役(小出武男君) ただ今の御質問でございますが、四十
年度、決算状況を見まして委員会が要望であります。
た三点につきましてお話がありましたが、四十年度は非
常に物価上昇の年でありまして、予算の執行面に
若慮いたしてございます。

一、結果的に見まゝで、単年度赤字にならないで済んだという結果でございます。

第二点、不用額の問題でございますが、約八億を予算で二千五百万ばかりの不用額でございますが、二は％にいたりますと九％に当ります。さうに不用額の中を分析して見ますと、やむを得ず、使えなかった金、が約一千万円ございます。

市民会館の用地、九百万円、房南中学校の建設費、九百万円を新築のために使わなかった。館高、体育館の負担金を三百五十万円位取っておいたんですが、これも執行しません。これだけを合算しても、一千五十万ばかりになります。

二は二千五百万から引きますと、純然たる不用額は、千五百万という二になります。二を比率的に考えますと、

八億に對して一分八厘、いふならば、執行率は九九・八一といふ、完全執行に近い執行率になります。

もちろん個々もやにつきまゝでは決算書にございますように、支出をなかつた面も多分に伺はれると思ひますが、執行に當たりまして不要のものはもちろんおまかせんが、できるだけ今申しますように、單年度赤字をおさなひといふ、数字から申しまして、需用費とか、その他節約できる面は、極度に節約を以て執行した年がございます。ことを、今際申上げておきたいと思ひます。要するに委員会、要望の線を十分に執行してやつたといふうに、今、御質問に對してはお答えできると思ひます。

議長（田中祿郎君）午前、會議はこゝにて休憩といたします。

午後 零時五分 休憩

午後 一時四十五分 再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数 三十四名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

認定第一号乃至第八号の質疑を継続いたします。

六番(秋山六三郎君) 五一ページ尿処理費、これは当初予算

に對しまして補正が百六十四万三千円余補正してあるう

てございます。ところが決算を見ますと百十六万二千

円ほど不用額として上っております。そうする

と相當の補正で追加をしてあるのに對して、大部分が

使われていない。しかもこの内容を見ますと、さらに予備

費からわずかであります。持ってきてある。

これだけ補正をしてさらに不用額を出しているのかかわ

らず、予備費からわずかでも充用してある。こういうことに
なりますと、どうも補正の組み方というものが、何か正当性を
欠くところがあるように感得するわけでありますが、この内
容をさらに検討して参りますと、公有財産購入費というも
うが使われていないことが資料によってわかるので、ございま
すが、どういふわけで、こういう結果になったのか、その点御
了承願いたいと存じます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）ただ今、御質問にお答え申し
上げます。

確かに不用額が百十数万あるわけですが、
特に不用額として大きな点は二十四節の百万円の支
出がでなかつたことがおもな原因と思うわけですが、
御指摘のように私も予算計上の過程におきましては
実施する考え方でも願いたいとして、議決をいただ

いたわけでございますが、いろいろ用地、その他関係によつて私どもの努力も足りなかつた点もありまして反省をしておるわけでございます。一かーながら私ども皆さん方の御指摘御注意もいろいろ受けておるわけでございます。ましてできるだけ早い期間に買収へと進む考え方であったわけでございますが、四十年年度において交渉もできなかった関係もありまして私どもも意見と一致し得なかつたということから不用額を出したということを一応反省するやうでございます。

一かー本年度におきまして、二、三が買収の面で交渉を続けておるわけでございます。二、三の合致点と申しますか、結論がふないというような観点から現在まで買収の段階に至っておりません。一かー私どもその話より済み次第、早急に買収に持つて参りたい。

このように考えておるわけでございます。

従いまして現年度におきましては決定線が出てからお願ひしたいという事で、四十一年度におきましては未計上でございます。なお、これも決定線ではございせんが、場合によれば、四十一年度は地代は辟退してもしつという話も出ておるわけでございます。私も四十一年度内に買収を完了したい。このように考えて現在交渉中でございます。ただ今、御指摘の不用額点については私も執行の手續をおわび申し上げて今後ニラうなことがないように努力するとともに、予算計上に当たりましては御指導いただきまうな線で今後進んで参りたい。このように考えておる次第でございます。

六番(秋山大三郎君) 不用額を百十六万余おいておるにかかわ

らず、予備費の方からわずかではありまするが持つてきておる。この点はというわけでありましようか。
 衛生施設課長（吉田耕一君）予備費充用でございませうが、この充用が適切かどうかという点でございまして、私も流用ということも考えなければいけません。ほかの面の使用も考えまして、予備費から一応充用させていたのだというところで、確かにほかから更正を——或いは流用——もさうつかえなかつたと結果として考えておるわけでございます。十分この点を注意いたしたい。このように考えます。

ニニ番（君塚喜三君）九ページ五款使用料及び手数料のニ項、四節、衛生手数料について、その備考欄における衛生処理手数料未納額十一万二千五十円とありますが、これに關連して質問いたします。わけですが、実は前回の九月定

例会において、この点について質問いたしましなが、所管課長欠席でわからぬということでありましたが、私から次会まで保留いたす旨発言、質問を打ち切ったのであります。

このことは会議不継続の原則、これによりまして失効するものでありますので、改めて質問の形を取った次第であります。が、すでに前会において詳しく申述べてありますので、重複を避けますが、衛生処理手数料についてその徴収方法に前売りのチケット制などこれに対する何らかの対策をなぜ取らないのか、取らないのか。昨年の九月定例会における所管課長の答弁の中に「現在関係課と検討中である」ということであつたわけであります。が、あつたから一年二カ月を見ておりまするが、私が知る限りにおいては全然前進がない。依然として

大きな滞納額を欠けておる。私は前にも申し述べたように前売りチケット制において十分解決するものがあると思っております。もし解決ができるとするならば防げば防げるものを防ごうとしない。この点を重視するものであります。これまで関係課といろいろ検討されたことと思うのでありますが、なぜそういう点に踏み切れないのか。それについてはどういう隘路があるのか。将来の見通しと決意をお伺いいたしたい。以上であります。

・衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。

私ども確かにいろいろ関係課とも協議・検討は続けられてございますが、結論的に申し上げまして、今う線について滞納をなくするよう努力すればなるやだという結論を得たわけでございます。

現在う単価で投入手数料が納められないという単価で

ないと考えたわけでございます。

従いまうて市が許可を——そうして監督を今後——いくわけでございます。なお従来までやっておいたわけでございますが、それが完全でなかったと考えるわけでございます。今後、そういふ面を十分に指導・監督を強化いたしまして、とうとう線でございます、端的という言葉もなくなつていくんではないかと確信を持つたわけでございます。一応現在、線で進んでいくという結論を得たわけでございます。います。なお九月の定例会におきまして、私、大席いたしまして、はっきりした線が示された点をこの機会におわび申し上げて答弁にかえさうしていただきたいと思います。

。三番（君塚喜三君）ただ今、御答弁では納められない額ではないかということなんです。が、事実において、端

納額があるということはどういうことなんでしょうか。一か月前までは大きな額があったというふうに聞いておる。一年二カ月の経過をみておる。

現在ではなくたそうではございますが、二週間ほど前までは大きな額があったというふうに聞いておる。

一かー 私滞納額自体についてどうにうということとを申し上げようというんでなくて、滞納額が出る自体に對してそれを何らかう行政措置において防止することができないのか。私は前売りのチケット制において十分解決できると信じておる。

木更津市においてもそれを実施しておる。なぜ前売りのチケット制が実施できないのか。その点がどうもはっきりしない。

このたびも十一月十四日に実施して監査報告を見ても、これは衛生処理手数料だけではございませんが、

それを含めた使用料及び手数料において百八万二千四百八十
円という大きな額がのつてゐる。また前年より出納閉鎖
期においてすら、この点におきまゝでは、実質的なその
前より出納期間に過年度未収分として残る滞納額
と新年度に入つてから四月、五月、二月分より滞
納額を含めると三十九年度分については、百六万三千
三百十円、四十年年度におきまゝでは、百一萬五千七百三
十円、ほとんどかわらないというような実態が出ておる。
二つ、このことは、何らかの処置についてできると思ふ。

一、かも、あなたがおつてゐるやうに納めれば納めら
れない額ではないか、ということをしてゐる。だとす
るならば、これは簡単に何とかできるのではないかと
思ふんですが、この点いかがですか。本更律市なか
における前巻よりチケット制について御研究な

さいますたか、再度お尋ねいたします。

・衛生施設課長(吉田耕一君)最初に木更津のチケット制について

私ども研究はさしていただきまいた。やゝいいという程度でございます。税金などというわけではございません。

一ニ例を取り上げますと、やはりチケットを買っておいても場合によつては持つてこない場合があつてあとで持つてこいというふうなことにまつてまともでないという事態が二三出ておるわけでございます。そういう面等から見ましてもなかなかむづかしい問題であるわけでございます。結局責任者に納付の義務を与えてあるわけでござりますので、一カ月分をまとめまして、納付書を責任者に納付して納めていただくという方法を現在取つてきたわけでございまして、たまたま御指摘のようは私どもも努力が欠如

からうあつたわけでございます。

私ども収納課等とも十分今後の連絡を取りま
て、二うーな面うないまうに直接責任者の納付と
いうふうに持つていつてこの制度を続けていつて見ま
うという考え方になつたわけでございます。

それと納められない額でないと申し上げたわけございま
すが、一口に申しますと納める気になれば現在まで納
まつてきておるといふことから、それを振り返つて見た
場合に十分うー十二分うーう額といふふうにかえて参
りますれば可能な額であると考えまうて納められない
額でないといふ言葉を使つたわけでございますが、そう
いふ面からできるだけ手数を省いてそうう
完全な運営をしていきたい。二ういう念願から目
的は滞納をなくすることにあるのだといふ見地から、

いろいろ関係課とも検討した結果、今う線を踏襲して目的を達成しない。このように考える次第でございます。

・ニニ番（君塚喜三君）所管課長が現在やり方において十分達成できるやうだ。という御答弁でございます。

今後、こういう事態がもし、できまうときには、あなたは、その言質に対して十分責任を取っていただくたい私は、それだけを要望して質問を打ち切ります。

・一番（吉田勇治郎君）議事進行上、この際動議を提出いたしませんかと思つてます。

ただ今、議題となっております認定第一号乃至第八号昭和四十年年度一般会計並びに特別会計の決算書につきまうては、なおたくさん御質問もあろうかと存

じますが、ひとまず、質疑をこの辺で打ち切りまして、決算審査特別委員会を設置して慎重に御審議願いたいと思います。

そのための相当の期日を要することであらうかと存じますので、期間を三月定例会までと一特別委員会に付託されるよう、二に議会運営協議会を代表いたしまして議事進行の動議を提出いたします次第でございます。

なお委員の数は例年にならしまして十名と一選任の方法は議長監査委員を除いて任期中全員が決算委員に選任されるよう配慮し議長が指名により選任していただくまいと存する次第でございます。以上申し上げまして満場の御賛成を祈りたく、この際動議を提出いたします。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) ただ今一番議員君より提められました
動議を議題といたします。

本動議は認定第一号乃至第八号について質疑は
こゝで打ち切り慎重審査の必要上、特別委員会
を設置してこれに付議し、特に閉会中、審査、特別
付託をいたさないということとあります。

おはかりいたします。こゝ動議に異議ありませんか。
(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決ま
りました。重ねておはかりいたします。

本動議によりますと委員の数は十名、選任の方法
は前例にたらい、参考し議長、指名によらうたいと
いうこととあります。

ニ小に御異議ありませんか。

(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議ナと認めます。

よつて以上とあり決定いたしました。

ニ小より決算審査特別委員会より委員を指名いたします。

四番議員 館石伝蔵君 審議員 田村源治郎君

一審議員 辻田 実君 一三番議員 菊井敏博君

一五番議員 小沢恵太郎君 二番議員 保科忠夫君

二七番議員 鴻田 繁君 三四番議員 山本 昇君

三五番議員 松本藤太郎君 三六番議員 山口 康君

以上十名の方を決算審査特別委員会の委員に選任

いたします。ニ小に御異議ありませんか。

(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。さて次

一々

次に今選任さしまた決算審査特別委員会に認定
第一号乃至第八号を一括して付託し開会中審査
を付議いたします。

次に今選任さしまた委員の方々は本日中に正副委
員長を互選いたしますので御了承願います。
暫時休憩いたします。

午後 二時三十分 休憩

午後 五時 七分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
日程第四議案第六十七号を上程いたします。

ただちに質疑より行ないます。

一〇番（辻田実君）二三箇單に御質問申し上げます。
一一ページ、財政調整積立金、二十五節、積立金、
の財政調整積立金、金、利子、四十三万一千円、
という多額の金になっておりますが、財政調整基金、
についてはわかりませんが、積立金、金、利子、
銀行、かなんかに野金、一、おる、と、思、い、ま、す、が、
どう、い、う、と、い、う、か、ら、入、っ、て、き、ま、か、お、聞、か、せ、願、い、た、い、と、思、い、ま、す。

二番目が、一七ページ、教育費、事務局費、十九節、
負担金補助、及び交付金、の中で、某体育大会、
参加補助金とありますが、説明でござい、ま、す、と、
五十数万、か、か、つ、た、と、い、う、が、
さ、う、い、う、の、四、十、万、と、い、う、こ、と、で、
ござ、い、ま、す、け、れ、ど、も、
そ、う、い、う、の、間、若、干、相、違、い、が、あ、る、け、れ、ど、
も、PTAが負担、と、い、う、か、さ、ら、に、
個人負担、と、い、う、か、さ、ら、に、

いう点についてわかりまらう。もう少しくわしく御説明をいただきたいと思います。

一九ページ保健体育総務費のうち壮年スポーツテストの食料費について説明があつたけれども三十五文から五十九文までですが、百人を抽出して行なうということで説明されておたわけでございますが、百人を対象にして食料費ということになると、単価が三万円という形になると、多々もうな気がするけれども、もう少し詳しく御説明願いたいと思います。以上。

・収入役(完戸貴君) 第一点についてお答えいたします。財政調整積み立て金利子でございますが、財政調整基金の基金を積み立ててございまして、これから生ずる利子も積み立てることになっておりまして、本年度収入

予定のものに計上した次第でございます。

。教務課長（千場伊右エ門君）県体育大会参加補助金の二十万円でございすが、県体育大会に中学校の生徒が参加したまゝで大体、その費用が五十四万六千円かかったのでございすが、当初予算で二十万お願ひして、そのあと三十四万六千円は、今度追加で二十万円、その残額の十四万六千円、これはPTAで支出する。こういうものでございます。

。社会教育課長（源間利一君）壮年スポーツの食料費でございすが、対象は三十五から五十九まで男女それぞれ、半令並びに取種、バランスを考えると、こういふから、学校取員におきましては、第一中学校の取員二十名、一般住民につきましては、館山市内五地区をお願ひいたしました。昨年行ないました勤労青年のスポーツ

テスト、際、事故者があつたというところで、今回は各
地区とも医師の立ち会ひで行なう。なお一般住民をお
願ひするということとで立ち会ひの責任者として各分館
長一名並びにテストは一名、関係地区体育指導
員並びに補助員ということとで地域差はございますが、
五乃至八名の関係者が立ち会ふということから百名
の受講者に対して関係者四十乃至五十名が予想
されるので二百円づつ百五十名というところで願ひす
るものでございます。

議長（田中祿郎君）議案第六十七号は討論省略原
案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議ないと認めます。よって議案
第六十七号は原案通り決まりました。

日程第五 議案第六十八号 議案第六十九号を一括上程
いたします。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第六十八号、第六十九号は討論
省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ナ—と認めます。よつて議案第
六十八号 議案第六十九号は原案通り決定いたしま
す。

おはかりいたします。ただ今、吉田勇治郎君ほか六名
の議員君より議案第六十九号が提出されました。

この際これを本日、日程に追加—ただちに議題といた
すと思ひます。二つに御異議ありませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって日程は追加せまう。

議案を配付いたさせていただきます。

（議案配付）

議長（田中祿郎君）議案第七十号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第七十号 館山市議会議員定数条例の制定について

（一番議員 登壇）

一番（吉田勇治郎君）ただ今議題となりまう案件について提案者と代表いたしうて理由を御説明いたいと申します。

御案内のとおり、当館山市議会におきまうては、議会運営懇談会を設置いたしうて定数問題についてまた、その他議会運営等々につまうて長きにわたる

いろいろと懇談を相かわりて参つたものでございます。
たまにたまにその結論が二に定数三十名と相なつたわけであ
ございますが、この案件につきまゝではいろいろと理由もあり
まゝです。また確固たる根拠づけることも困難でな
かろうかと信ずるやでございますが、議会の定数について
はがめるとき、館山市、議会議員、定数、三十名に
なつた由来を今から十二年前にさか上つて考えるとき
合併によつて増員が六名なさいたと私は記憶するやで
ございます。自来十二年余経きりて、市行政機構に
おいてもある程度、成長を見、議員定数ももはや
再検討をする時期ではなからうか。こゝろ考えらるまゝ
て、本定数三十名にする根拠といひまゝでは地域、
狭隘、人口、客観情勢等を加味して三十名を提
案し、次第でございます。

どうか本案につきまゝて賢明なる同志諸君が満場の賛成を得まゝて本案が通過し館山市発展の基本となつて民主議会政治が發展しわが館山市の根幹をなすまゝに本議会が満場一致賛成さうなことを希望いたしまして私ゝ提案説明いたします。

(拍手)

議長(田中祿郎君)本議案の質疑は二を省略するにとり御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて質疑は省略することに決まらば。

二より討論を行ないます。

一〇番議員(田中実君)

(一〇番議員登壇)(拍手)

一々番（辻田実君）に代いまし提案に対して私は残念に
ながら反対をいたさないわけでございます。

その理由につきましてもはた今も提案者から申し述べ
らるまいなように、この削減の第一の理由が町村合併に
伴う遺産が今日も残っているという点。そうして今再
検討の時期にきておるといふことでござりまするけれど
も、この点につきましても私は従来からの委員会内の審
議に対してましてもあえてこの点については再検討を必要と
認めないからであります。

そうして再検討の理由といたしまして市域の狭小人口
の減ということが理由になつておるわけでございまするけれ
ども私は決してそうは思わないのでござりまする。

確かに十萬都市を標榜しながら現実には人口は減つて
おります。しかしながら館山市の有権者と被選挙権

者数は異増大していることは見のがすわけにはいかな
のでございます。従つてこの点を十分考えなければ

ならないではないかという点を指摘いたしてございま
す。三番目に結論といひまゝでは民主議会を確立する
ことではございます。もう民主議会を確立するには
二う一面ではなく、広く公聴会さらに市民投票なり
そういう道を経てゐるべきでありまして、二う一面に
おきまゝでは民主議会がルールの上に立つておらないと感
ずるわけではございます。

そこで私は反対する意見といひまゝでは四つほどある
わけではございまして、その点を披瀝いたないと思つた
わけではございます。

私は今申しまゝに有権者が増大してゐるという
こと、二うして有権者は被選挙権者でもあるとい

うことです。日本国憲法は主権在民を明らかにしてあります。その中において私は国民の権利であるところの二十
五文以上の館山市民が等しく持つております。被選挙
権を教を減らすということは被選挙民の権利を剝奪す
することになるもので、私はこの市民の権利を剝奪する
ことはできないと思うのでございます。(拍手)
これがまず第一点でございます。

私どもは議員であるかもしれませんが、明春の四月には、
選挙が行なわれまして新しい人たちが入ってくることも
予想されるのであります。我々今議員だからといって
この権利を剝奪することは反対であるわけでござい
ます。二番目に主権在民の点でございますけれども、多くは世論を
聞くということが、私は先ほどありまして、民主政治で
あり、民主主義の原則に基くとらう政治理論では

ないかと思つてあります。

民主主義を守るために

多く世論を聞くということが根本の原則でなければならぬと思つてあります。

そういう意味におきまして、私は多く世論を聞くことは、多く議員がいるということにまさる何もかもないと思つてやまないわけでございまして、主権在民、民主主義の理念確立という面から私は定数の削減については賛成できないわけでございます。

議員としてさらに本議会といつて、私は三番目に議員独自の問題の件において定数減の必要が何らないと思つておるわけでございます。

法律に基いて何名未満の場合には、最高限何名までしか持てない。

こういう法律に規定されておるわけでございまして、今日

館山市が五万六千余の人口を持ち法律に基いて三十
六名の議員というのは合法的なわけで、従って何う法
律にも抵触することもないわけでございます。

三という状況の中にあつては財政的な理由とか、さらに
市議会自身、運送に大きな支障をきたしてゐるの
だ。三という何うか理由がなければ私は議員定数を
減らす必要はないのではないか。それが民主主義を守る
立場から当然なことであらう。

今まで今回、選挙を通じて三年有余、議会運
営の中に年々議員と市民の協力によつて歳入は増
加してまいります。議員の定数におきましては、ふえるこ
とがあつても減るようなことは一度もございませんで、た
りうた中において私は議員定数を減らすことは反対な
わけでございます。

私は議員一人が年間報酬を何十万もらうからということによって金がかからないというような世論も一部にはあるようでございますが、議員一人が市民のために尽くすところへ努力、そうして市民の切実な要望を議会に反映し、市政に反映することは五十万や六十万、金にかえらなければならない信じておる者でございます。

私はこういう金銭的、予算的な理由によって議員の評価を金にかえることについては、議会が權威と議員の威信を高める意味からも絶対に反対するものでございます。最後に民意の反映ということも十分考えなければならぬわけでございまして、そういう民意におきましては、定数を減らさなければ、館山や議会なり市政が發展しないと申している人は、そう多くなっていると思っております。

以上、私が述べてきたような観点に立ちますれば、何ら議員
が定数を減らすことはないと思うわけでございます。

私は今日まで議員として、尽くして参りました。皆さき方も
私以上に民意を反映するために努力されてきたと思うわけ
でございまして、私はあえて定数を減らすことにして
議員自身、責任を回避するようなことをいいたく
ないわけでございまして、胸を張って三十八人、もうろ
もっと多くても、館山市の発展のために民意を反映とい
ふから、さうつかえないやうではないかという観点に立ちます。
以上、四点を申し上げて、私は本条例について反対する者
でございします。

どうかよろしく御賛同をお願い申し上げます。

(拍手)

議長(田中祿郎君)三四番議員、山本昇君。

(三四番議員登壇) (拍手)

三四番(山本昇君)ただ今議題となっております、館山市議会議員定数条例であります。私は提案者として、議案に対して賛成を表明する者でございます。私も、もつとも懸念する館山市が私も考えと逆行いたしまして、だんだん人口が減っておりますことは、まことにさびしいわめでございます。

本間市長さんが十万都市の建設をうたいまして、私も全面的に之に賛成を表明して、今日まで参ったのであります。すが、遺憾ながら現実問題は減っております。

この現実には皆さん等しく御理解のことと思ひます。

そこで自治法の九十一条によつて与えられておりますところの議会、定数が人口五万以上、十五万までは三十六名を置くことができる。二、三という法律があります。

私どもがあれで、この法律によつて許さなければ、定数を減らす、
そうするには、これはよほど考えなければならぬことであり
ますが、一カー、皆さん、この九十一条の第二項に、これは
条例によつてかえることができる、ということとは、とりもな
らず、法の精神が、その現実、実際の状態に基いて、多少の
変更は認めると、このような趣旨が含まれておると、かま
うに存するのでございします。

果議會の場合には、人口何万以上に対しては、幾らという
法律ではっきり、数がきめられておりますが、市の場合、そう
いうことはございせん。大きいわけでございします。

それは第二項が判定されておることを、私どもは深く銘記
し、なければならぬと存するのでございします。

かような観点からいたしまして、現在の館山市の現実の
姿を見るときに、私どもが与えられてゐるから、といって、五万

以上十五万未満の三十六名を持つことが果たしてどうかということを静かに考え、静かに反省する必要がなかろうかと、かように存する次第でございます。

かような観点から、現在、館山市の財政、或いは人口、状態、或いは住民のいろいろの声を聞き、そういうものを私も身をもつて感じ、まして、議会みずから手に持つてみずから自発的にこの問題を取り上げ、検討する、という立場に立つて、先に、議会運営懇談会ができたのでございしますが、懇談会の結論として、提案をいま、二十九、三十名をもつて、もつともいいんではないかという結論が、出たのでございまして、私は、こういう趣旨から、いま、まして、本議案に全體的に賛成を表明すると同時に、どうか皆さん、絶大なる御賛成をたまわりますように、切に願ひいたしまして、賛成の意思を表明す

る次第でございます（拍手）

・議長（田中祿郎君）以上で討論を終ります。

こゝより採決を行ないます。

本議案に賛成の諸君、起立を求めます。

（起立多数）

・議長（田中祿郎君）起立多数。よって議案第七十号は原案

通り決定されました。

おはかりいたします。

以上で本定例会に付議されました議事案件はすべて

議了されました。

よって本日をもちて第四回市議会定例会を閉会いたします。

ことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって本定例

会にニハテ開会と決定ハルマシキ

午後五時三十七分 開会

本日會議に付いた事件

一 議事日程に加えて

議案第七十号 館山市議會議員定数條例の制定に付て

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小柴 孝 館石 伝蔵

田中 祿郎 秋山 大三郎

田村 源治郎 望月 照正

安西 益男 辻田 実

石井 正 菊井 敏博

志村 信作 小沢 惠太郎

関 武夫 黒川 佐太郎

西村 真次 藤田 好治

保科 忠夫 江田 徳太郎

君塚 喜三 中村 省吾

島野 茂樹郎 荻生田 七郎

嶋田 繁 山田 教子

鈴木 市蔵 安藤 亀吉

安沢 徳順 三沢 節

高橋 文治 山本 昇

松本 藤太郎 山口 康

欠席議員

打し

出席説明者

一 第一日目 以下同ト

出席事務局取員

一 第一日目 以下同ト

昭和四十一年十二月十五日

右会議の次第を録し、三三に署名す。

館山市議会議長

田中 祿郎

同 署名議員

石井 正

同

鳴田 繁

